

次世代移动通信“5G（ファイブ ジー）”って何？

携帯電話が登場したのは1980年代。当時は、出先や移動中に電話が出来るだけで驚きだった。その後データ通信が加わり、携帯電話でメールやインターネットが利用出来るようになった。こうした進化を裏で支えているのが、現在のドコモやソフトバンク、KDDIなどの携帯キャリアが持つ無線データ通信網の技術革新である。特に、通信システム（インフラ）と携帯端末の両方を根幹からそっくり入れ替え、大幅な通信速度向上を実現する節目とその仕組みを“世代”（Generation）と呼ぶ。現在日本で主流なのは第4世代、いわゆる「4G」だ。

そして今、2020年の実用化を目標に話題になっているのが、次世代の「5G」である。なぜ、5Gが必要なのか？ 今後は、IoT化が急速に進み、身の回りのありとあらゆる“モノ”が“インターネット”に接続することで、トラフィック（通信回線を利用するデータ量）の急増が見込まれる。そこで5G通信網による解決が期待されている。

“5G”のある未来の生活って、どんな感じ？

～5G時代を迎えると、私たちの生活はどのように発展するのだろうか？～

【ケース1】自動車
自動運転車の実用化！

【ケース2】ドローン
宅配や橋梁・道路の保守点検なども…

【ケース3】造成/建築
重機の操作や現場監督も遠隔操作が可能に！

【ケース4】遠隔手術
離島などに居ながら、都市圏の専門医の施術を受けることも！

【ケース5】8K映像の伝送
8K伝送の普及に貢献！
さらに、ホログラム立体化など、映像の高精細化にかかせない！



【孟晚舟氏】

☆☆☆ “ファーウェイ” はなぜ大問題なのか…☆☆☆

ファーウェイに対しては、何年も前から米国が懸念を募らせている。同社は中国政府の影響を受ける恐れがあり、その機器が中国当局によるスパイ行為を受けやすいとの懸念だ。最近では、「5G」開発でのファーウェイの急成長により、いずれ米企業が同社から機器を購入する羽目になりかねないとの懸念を膨らませている。

ファーウェイは自社について、従業員持ち株制による企業であり、中国政府の命令を実行している訳ではないと話す。創業者の任正非氏（現在74歳）は、1983年に人民解放軍を除隊してまもなく同社を創業した。孟晚舟氏は、任氏の娘でファーウェイの最高財務責任者（CFO）を務め、今年副会長に昇進した。同社が、対イラン制裁に違反したとする米当局の要請を受け、カナダで逮捕された。ファーウェイは2017年の売上高3036億元（約10兆4300億円）、従業員は世界約170ヶ国・地域で18万人を超える。その世界最大の通信機器メーカーを創業者の父から引き継ぎ、会長に就任すると目されていた。

＝出典：The Wall Street Journal（Web）・価格.com マガジン＝